

学校関係者評価 報告書

対象期間:2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

学校法人:早稲田大学

早稲田大学芸術学校

目 次

1. 評価実施の概要	3
2. 評価結果	4
1. 学校の教育理念(AA Idea)	4
2. 学校評価の基本方針	4
3. 学校の重点目標	4
4. 評価項目	
(1) 教育理念・目的・人材育成像	5
(2) 学校運営	6
(3) 教育活動	
① 目標の設定等	7
② 教育方法・評価等	8
③ 資格試験	9
④ 教職員	10
(4) 学修成果	11
(5) 学生支援	12

(6) 教育環境	1 3
(7) 学生の受入れ募集	1 4
(8) 法令等の遵守	1 5
(9) 社会貢献・地域貢献	1 6
(10) コロナ禍への対応	1 7
5.総 評	1 8

2021 年度 早稲田大学芸術学校 学校関係者評価報告書

1. 評価実施の概要

評価目的：「早稲田大学芸術学校 2021 年度 自己評価報告書」を対象とした学校関係者評価委員による外部評価

評価実施者：学校関係者評価委員会

実施日時：2022 年 5 月 18 日～25 日

※新型コロナウイルス感染予防対策のため、メールを用いた持ち回り審議により実施

学校関係者評価委員：

種別	所属	役職名	氏名	備考
学識経験者	早稲田大学 人間科学学術院	教授	加藤 麻樹	本委員会委員長
関係業界	建築家、 神奈川大学工学研究所	客員教授	石田 敏明	本委員会副委員長
専修学校団体・ 関係団体	稲芽会、 株式会社竹中工務店 東京本店プロダクト部	稲芽会 副理事長	田中 茂	

(敬称略)

評価の方法

本校自己評価委員会において承認された「2021 年度 自己評価報告書」を各委員に送付し、評価項目ごとに 1 (不適切) 2 (やや不適切) 3 (ほぼ適切) 4 (適切) の評価判定を受けた。各委員の評価の平均値 (小数点以下第 2 位を四捨五入) を最終評価とし、また記述意見についても取りまとめた。

2. 評価結果

1. 学校の教育理念(AA Idea)

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

- ・教育機関としての伝統を基に理念は大いに評価できる。

2. 学校評価の基本方針

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

- ・評価できる。

3. 学校の重点目標

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

- ・多様化傾向の社会ニーズに対して目標が明確になっている。
- ・カリキュラム改革の成果が具体化するまで継続的な運用を行うことが必要。

4. 評価項目

(1) 教育理念・目的・人材育成像

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.7

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4.0
学校における職業教育の特色は何か	4.0
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.7
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界等に周知がなされているか	3.7
各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.3

■委員からの評価・意見

●「学校の理念・目的・育成像は定められているか」

・学校要項に明確に明示されている。

●「学校における職業教育の特色は何か」

・学校要項に明確に明示されている。

●「社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」

・多様化する社会に対して目標を掲げている。

・専修学校としてのニーズは決して少なくないことから、マーケティングと広報への注力が期待される。

●「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界等に周知がなされているか」

・改善されていると評価できるが、どの程度、周知されているかは明確でない。

●「各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけら

れているか」

- ・改善されているが追跡調査が必要。
- ・現在のニーズだけでなく、業界がどのような方向へ進んでいるかも踏まえた先取りと、変わらないコアの部分をおさえた人材像を期待する。

(2) 学校運営

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.9

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4.0
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.7
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4.0
人事、給与に関する規程等は整備されているか	4.0
教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4.0
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.7
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.7
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「目的等に沿った運営方針が策定されているか」

- ・設計以外の建築関係分野やその周辺領域に進んでも、この学校で学んで良かったと思えるような内容となっている。
- ・教育理念を守りつつ、ステークホルダーの期待に応えるために、今後より一層の共感性向上を期待したい。

- 「運営方針に沿った事業計画が策定されているか」
 - ・広報活動の充実を期待する。
- 「運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「人事、給与に関する規程等は整備されているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」
 - ・芸術学校独自の近隣対応が望まれる。
- 「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」
 - ・SNSでの情報発信は、それぞれの特性を踏まえ、もう一段の工夫があっても良い。
- 「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」
 - ・適切に実施できている。

(3) 教育活動

①目標の設定等

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4.0
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」
 - ・多様な人材を育成するアセンブルな新カリキュラムは評価できる。
- 「教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか」

- ・十分評価できるが、標準修業年限の設定（延長）を柔軟にできる学校独自の運用があっても良いのではないか。
- ・卒業認定要件として、教育理念をどれくらい具体化したかを評価する試みを期待する。

②教育方法・評価等

■評価結果：適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント ： 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4.0
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4.0
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4.0
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4.0
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4.0
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか」

- ・適切に実施できている。特に資格に対するカリキュラムの対応ができている。

●「キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか」

- ・基礎から専門まで適切なカリキュラムが実施できている。

●「関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直

し等が行われているか」

・適切に実施できている。講義と実習のバランスが良い。

●「関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか」

・多様な講師陣を配置していると評価できる。

・JIAのオープンデスク制度の活用を検討してみてもどうか。

●「職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか」

・適切に実施できている。

●「成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか」

・適切に実施できている。

③資格試験

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4.0

■委員からの評価・意見

・適切に実施できている。

④教職員

■評価結果：適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント ： 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4.0
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4.0
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4.0
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」
 - ・大学との連携が十分取れている。
 - ・教授陣は充実しており、今後も維持して欲しい。
- 「関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか」
 - ・大学との連携が十分取れている。
 - ・教授陣は充実しており、今後も維持して欲しい。
- 「関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか」
 - ・大学との連携が十分取れており、適切に実施できている。
- 「職員の能力開発のための研修等が行われているか」
 - ・大学との連携が十分取れており、適切に実施できている。

(4) 学修効果

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.5

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
就職率の向上が図られているか	3.7
資格取得率の向上が図られているか	3.3
退学率の低減が図られているか	3.7
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.3

■委員からの評価・意見

●「就職率の向上が図られているか」

- ・就職支援に必要な卒業生の就職先情報把握に関しては、引き続き改善を期待する。
- ・就職率に加え、学校の目指している人材として社会に巣立っているかのリサーチができると望ましい。
- ・ダブルスクールで資格取得を目指す学生の就職とその後の活躍に役立つ具体例が示されることを期待する。

●「資格取得率の向上が図られているか」

- ・多様化に対して資格取得に特化する必要はないが、設計業務では重要となる。
- ・資格取得率向上は専修学校の課題の一つであるが、社会人学生が多いため必ずしも率向上が効果を示すとは限らないと考える。

●「退学率の低減が図られているか」

- ・学生の諸事情によるところが大きいですが、意欲ある学生が退学せざるを得ない状況となった際に、できる限りのサポートを行える体制として欲しい。
- ・入学時点から継続的に卒業までを見通した指導を行うことを期待する。

●「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」

- ・卒業生の活躍状況を把握し、多様なメディアを通して紹介できると良い。
- ・稲門建築会、稲芽会などの校友組織とも引き続き連携して欲しい。
- ・学生、卒業生の活躍について十分に把握し、広報活動へ展開して欲しい。

(5) 学生支援

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.8

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0
学生相談に関する体制は整備されているか	4.0
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.7
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4.0
卒業生への支援体制はあるか	3.7
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4.0
大学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.7
関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか	3.0

■委員からの評価・意見

●「進路・就職に関する支援体制は整備されているか」

- ・卒業後にそれまでの経験とは異なる業種、業態へ進む学生もあり、難しい部分もあると思うが、適切な支援を期待している。

●「学生相談に関する体制は整備されているか」

- ・学校内の相談体制に加え、保健センターや学生相談室との連携が行われている。

●「学生に対する経済的な支援体制は整備されているか」

- ・学内の奨学制度に特化した冊子はあるが、よりわかりやすいガイドブックがあると良いのではないか。

・奨学金情報のさらなる積極的な提供を期待する。

●「学生の健康管理を担う組織体制はあるか」

・保健センター、学生相談室との連携による効果的な健康管理を期待する。

●「卒業生への支援体制はあるか」

・卒業後の状況把握と情報提供方法を工夫することで、現状以上の支援が期待される。

・校友会との連携を期待する。

●「社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」

・夜間学校でもあり、社会人が勉学できる環境は整っている。

・多彩な講師陣を配置し、適切な教育環境を提供している。

●「大学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか」

・大学との教育的連携が取れている。特に特別聴講制度は積極的にアピールできる制度と思われる。

●「関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか」

・卒後の状況把握が不十分と思われる。

・オンライン授業について、卒業生の参加が可能なら検討して欲しい。

・社会人が多い学生特性からすると、再教育プログラムのニーズがどこまであるかのマーケティングを行っても良いと思われる。

(6) 教育環境

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.7

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4.0
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3.0
防災に対する体制は整備されているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」

- ・大学施設との連携も取れており、適切に実施できている。

●「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか」

- ・社会人が多いことやコロナ禍の影響もあり難しい面があると理解している。
- ・社会人が多い学生特性からすると、インターンシップや海外研修等の提供が必ずしも学生の時間的制約にマッチしない可能性がある。
- ・JIAのオープンデスク制度は活用できるのではないか。

●「防災に対する体制は整備されているか」

- ・大学施設との連携も取れており、適切に実施できている。

(7) 学生の受入れ募集

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.5

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	3.3
学生募集活動は、適正に行われているか	3.3
学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.3
学生納付金は妥当なものとなっているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか」

- ・高等学校へのアプローチを積極的に行うとともに、大学生への情報提供も重視して欲しい。
- ・オンラインによる情報提供の可能性が広がったことから、今後より一層のデジタルコンテンツ提供を期待する。

●「学生募集活動は、適正に行われているか」

- ・地道な改善を行い、適切に実施できている。

- ・広報活動についてはさらに積極的な展開を期待する。
- 「学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか」
 - ・卒業生の進路、活躍状況を把握し、入学希望者に伝えることができればなお良いと思われる。
- 「学生納付金は妥当なものとなっているか」
 - ・適切に実施できている。

(8) 法令等の遵守

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.0
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.0
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4.0
自己評価結果を公開しているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「自己評価結果を公開しているか」
 - ・適切に実施できている。

(9) 社会貢献・地域貢献

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.7

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.7
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3.7

■委員からの評価・意見

- 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」
 - ・地域に根ざした芸術学校独自の社会貢献ができると良い。
 - ・継続的な社会貢献の実施には十分な体力が必要であり、現在のマンパワーの中で十分に貢献できていると思われる。
- 「地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか」
 - ・展覧会と講演を併合した取り組みは評価できる。
 - ・講演会や芸術展などの様子をアーカイブとして残し、いつでも視聴できるようにすると学校紹介にもなると思われる。
 - ・継続的な社会貢献の実施には十分な体力が必要であり、現在のマンパワーの中で十分に貢献できていると思われる。

(10) コロナ禍への対応

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.9

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
感染予防対策を適切なタイミングで策定したか	4.0
学生の学修効果および健康に配慮した授業運営を実施したか	4.0
教職員の健康に配慮した学校運営を実施したか	3.7

■委員からの評価・意見

●「感染予防対策を適切なタイミングで策定したか」

- ・大学で統一的に定めた方針に沿い、適切に実施した。

●「学生の学修効果および健康に配慮した授業運営を実施したか」

- ・学生にアンケートを行うなど、フィードバックを授業運営に生かして欲しい。

●「教職員の健康に配慮した学校運営を実施したか」

- ・教職員へのサポートが十分だったか、引き続き注意して取り組んで欲しい。

◆ 総 評

- ・2020年度からのコロナ禍の中、全体的に諸処の教育的取り組みは改善されている。
- ・多様化の時代に合ったアセンブルな新カリキュラムの成果が期待できる。
- ・芸術学校らしいユニークな、かつ文理融合型の総合的知識を取得する稀な夜間開講の学校として、幅広い学生層の受け入れに今後も期待したい。
- ・卒業後の学生および教員間の情報交換の場を積極的に用意することで、さらに組織として発展して欲しい。
- ・夜間で社会人を受け入れている芸術学校の潜在的な需要は今後もあるので、地道な広報活動と卒業生の活躍が重要になると思われる。今後も意欲ある学生に応えられる学校として発展していくことを期待する。
- ・2021年度も前年度同様に新型コロナ対策は十分であった。オンデマンドコンテンツの利用が促進されるきっかけとなり、夜間主体の授業に併用することで、今後の履修の柔軟性向上が期待される。
- ・授業開講方法の拡充も含め、今後も積極的な広報活動を継続し、広く芸術学校の存在を知らしめる方法についても継続的に検討を重ねて欲しい。同じく社会人を対象とする人間科学部通信教育課程や大総研等からの情報収集等、広報拡張についても期待したい。